

水痘

①水痘 - 帯状疱疹ウイルスによる感染症で、一般的には「みずぼうそう」として知られています。小児によく見られる疾患で、特に2～8歳に多いです。

②感染経路は、患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスを吸い込むことによる感染（飛まつ感染）、あるいは、水疱や粘膜の排出物に接触することによる感染（接触感染）があります。

③感染してから2～3週間後、全身に直径3～5mmの丘疹（盛り上がった赤い発しん）が数日間、次々と出現します。紅斑→丘疹→水痘→痂皮（かさぶた）の発疹が混在するのが特徴です。すべての発しんが痂皮になるまで6日程度かかります。

④通常、軽症で終生免疫（一度の感染で生涯、その感染症にはかからない）を得ることが多いですが、成人では重症になることがあります。

⑤またウイルスは治療後も体の中に潜伏していて、何年も経過してから「帯状疱疹」として再発することがあります。

⑥治療には抗ウイルス薬（アシクロビル、バラシクロビル、ファムシクロビルなど）を使用します。

⑦予防ポイント

有効な予防法は予防接種です。2014年10月1日から、水痘ワクチンが定期接種となりました。

水痘患者に接種した場合でも、3日以内にワクチンを接種すれば発病を予防したり、症状を軽減できるとされています。

⑧目黒区の小中学校、保育園では診断がついて、全ての発疹がかさぶたになるまで（ワクチン接種している時は新しい発疹が出なくなるまで）登校登園を控えることになっています。